

<全体分析>

試験時間 2科目150分

解答形式

記述, 論述, 選択

分量・難易(前年比較) 分量(減少・**変化なし**・増加) 難易(易化・変化なし・**難化**)

大問数は例年通り3題であり, 問題文の分量は昨年並みで, 論述問題の指定行数は昨年の24行程度から14行程度へと大幅に減少したが, 解答に時間を要する文章選択問題が増加したことから, 全体としての分量は昨年並みであった。さらに, 昨年と比較すると難度の高い考察問題が増加したことから, 難易度は昨年よりやや難化したと考えられる。

出題の特徴

出題の多くは考察問題であるが, 生物学用語の穴埋めや文章選択型の知識問題も出題される。今年は指定行数が3行程度までの論述問題しか出題されていないが, 過去には指定行数が4~5行程度の比較的長い問題も出題されている。

その他トピックス

第1問で扱われたRNA干渉は, 河合塾の講習の中に類似のテーマの問題(2016年度直前講習東大生物テストの第2講第1問)があり, 受講した受験生には有利であったと思われる。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述 論述 選択 計算	遺伝子 遺伝 体内環境 免疫	生物 基礎 ・ 生物	I B(a) 設問中のクリックが記したメモのみに基づいて考える。	標準
第2問	記述 論述 選択 計算	代謝 植物の反応 進化・系統	生物 基礎 ・ 生物	I B 光条件が明のときには, 光合成によって生成した $^{16}\text{O}_2$ がそのまま呼吸で消費されるため, 培養液中の $^{18}\text{O}_2$ 濃度はあまり減少せず, 光条件が暗のときには, $^{16}\text{O}_2$ と $^{18}\text{O}_2$ がどちらも呼吸で消費されると考えられる。	やや難
第3問	記述 論述 選択 計算	進化・系統 個体群 遺伝	生物	II D ロが左に曲がる個体と右に曲がる個体で採餌成功率に差がなければ, 図3-3の左図では右体側のはぎ取り痕数が左体側より多い個体が多くなり, 右図では左体側のはぎ取り痕数が右体側より多い個体が多くなるはずである。	標準

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 教科書レベルの知識を確実に身につけ、標準的な問題を解いておこう。
- 50～100字程度の論述で、要点を素早く簡潔にまとめる練習をしておこう。
- 過去問、とくにここ数年間の研究を十分にしておこう。
- 最近の生物学のトピックスにも注意しておこう。